

共生

奈良県生協連

2026年4月

NO.140



▲奈良県社協×奈良県生協連×ならコープ
による包括連携協定の締結



◀2025年度
生協組合員理事交流会

もくじ

2026年度奈良県生協連が取り組むこと……1	憲法学習会……6
奈良県社協・奈良県生協連・ならコープ包括連携… 2	奈良防災プラットフォーム連絡会……7
2025年度生協組合員理事交流会……3	近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会… 8
おじゃましました～生活クラブ生協の巻… 4	若者応援プロジェクト奈良2025・もったいないNARA… 9
加速する気候変動がもたらす私たちの暮らしへの影響… 5	なら消費者ねっとあつまるNARA 消費者楽習フェス… 10

2026年度奈良県生協連が取り組むこと(方針)

1. 情勢認識

- ・人口減少と少子高齢化の進行により、人材不足、独居高齢者の増加、地域のつながりの希薄化など社会課題が深刻化しています。
- ・がん、認知症、生活習慣病の増加やメンタルヘルス、女性特有の健康課題が顕在化し、地域医療・在宅医療・予防の充実が求められています。
- ・物価上昇が続く一方、賃金上昇は十分とは言えず、家計負担や格差拡大への懸念が強まっています。
- ・国際紛争の長期化により安全保障環境は不安定化し、核兵器を巡る課題も依然として解決の見通しが立っていません。
- ・気候変動や自然災害の激甚化、食料需給不安が進むなか、持続可能な社会づくりが重要性を増しています。
- ・衆議院議員選挙では、物価高対策、社会保障などが争点となり、国民生活に関わる政策動向を注視する必要があります。

2. 重点課題

- (1) 生協の事業と活動を通じ、協同組合間・生協間の協力、役職員・若手職員の交流をはかり、連帯感を強めます。
- (2) 「平和とよりよい生活のために」を生協運動の原点に、次世代への継承、学びを大切にしながら、日本被団協、継承する会との連携・協力をはかります。
- (3) 気にかかけあう関係性を大切に、自助・共助の力が生きる地域共生社会づくりに向けて、奈良県社会福祉協議会及び行政や地域諸団体との連携を強化します。
- (4) 安心してくらす消費生活をめざし、役職員の研修会の開催や学ぶ機会づくりを進めるとともに、くらしの課題の推進をはかります。
- (5) 能登半島被災地支援を通じて、人と人とのつながりの大切さや防災の重要性について理解を深める機会を創出します。

これら重点課題の取り組みを通じて、会員生協の人材育成への寄与をめざします。

3. 各課題の具体的な取り組み

- (1) 生協の事業発展を通して、協同組合の理念と価値を広め、地域共生社会づくりに貢献します。
 - ① 奈良県協同組合デー、奈良県生協大会、大学寄付講座の開催を通じて、協同組合理念の学習と交流をすすめ、協同組合間連携と生協の強みを発信します。
 - ② 行政・諸団体と連携し、地域防災体制の強化をはかります。能登半島被災地へ継続して支援に取り組みます。
 - ③ なら消費者ねっと及び関係機関と協力し、消費者被害の未然防止・拡大防止に向けた啓発活動をすすめます。また、関西消費者団体連絡懇談会に参加します。
 - ④ ピースアクションinなら2026、Peace Now! 奈良2026の支援、「奈良県のヒバクシャの声手記集」第二集発行に取り組みます。
 - ⑤ 脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギー、「断熱」健康・省エネ住宅、食品ロス削減など環境配慮の取り組みと学習をすすめます。
- (2) 会員のための連合会として会員の健全な発展を支援します。
 - ① 役員視察研修、理事長交流会を開催します。
 - ② 生協組合員理事交流会を開催します。
 - ③ 会員生協同士の情報交換、レクリエーションの開催並びに研修会及び学びの場づくりをめざします。
 - ④ 広報活動を強化し、生協連および会員生協の社会的活動の認知度向上を図ります。
- (3) 地域社会に対して生協の窓口としての役割を果たします。また、同時に県行政や諸団体と地域とのネットワークの一翼を担います。
 - ① 奈良県社会福祉協議会、ならコープ及び奈良県生協連による三者の包括連携協定に基づき、自助・共助の力が生きる地域共生社会づくりをめざします。
 - ② 食の安心・安全と食料自給率向上に向け、地産地消を推進し農業関係団体との連携をすすめます。
 - ③ 行政との協議や審議会参画を通じて、消費者の立場から政策提言をおこないます。
 - ④ 2027年介護保険制度改定にあたっての「生協アピール」をすすめ、こども食堂、フードバンク、健康づくり、障がい者団体との連携を一層深めます。

奈良県社協×奈良県生協連×ならコープ による包括連携協定の締結

～地域福祉の増進と地域共生社会の実現に向けて～

2026年3月11日 奈良県庁において、「社会福祉法人奈良県社会福祉協議会・奈良県生活協同組合連合会・市民生活協同組合ならコープの地域福祉の増進と地域共生社会の実現に向けた包括連携に関する協定書」の締結式が執り行われました。

奈良県社会福祉協議会 山下真会長、奈良県生活協同組合連合会 森宏之会長、市民生活協同組合ならコープ 福西啓次理事長が調印しました。



<背景と必要性>

急速な社会変化に直面する中、従来の枠組みを超えた新たなモデルづくりが求められています。分野を超えたつながりやウェルビーイングを基点とした「共創」への転換が不可欠です。

※身体的、精神的、社会的に良好で満たされた状態



<これまでの連携 ⇒ これからの協働>

私たちはこれまでも様々な社会課題に共に取り組んできました。

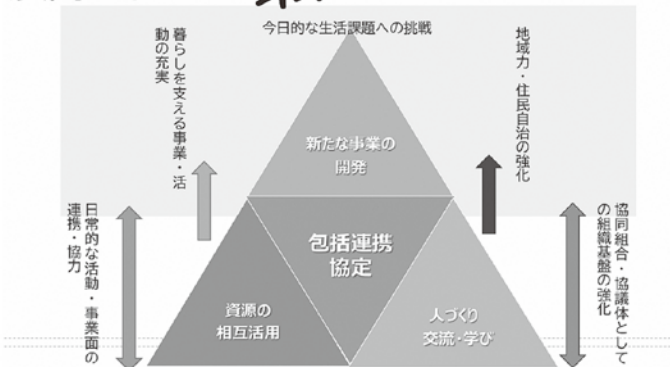
例) 奈良防災プラットフォーム連絡会、奈良子ども食堂ネットワークetc.

三者それぞれが持つ【強み】を掛け合わせるにより、これまで取り組んできた活動をより一層充実させ、民間の柔軟な発想で新たなチャレンジに挑み、県民が地域で安心して暮らし続けることができる地域社会を創造する「シン・奈良モデル」(※)の実現をめざします。

<協定のコンセプト>

- 変化に強い「基盤」づくり… 地域社会の変化に応じて柔軟に取り組みを生み出し続けるための「基盤」をつくります。
- 資源(リソース)の相互活用… 三者の組織特性や資源を活かしながら、新たな生活課題の解決に挑みます。
- 協働の拡大… 三者連携を軸に多様な主体とのつながりを広げ、地域に新たな支えあいの仕組みを構築します。

展開のイメージ



(※)「シン・奈良モデル」とは

県民が、地域で安心して暮らし続けることができる社会を実現するための様々な思いを込めています

- 三者連携という新しいスタイルで、地域福祉推進の基盤を強化します
- これまでの三者の取り組みを、さらに深化させます
- 民間の柔軟な発想で、新たな取り組みにチャレンジします
- 県民がくらしやすいと実感できる、真の地域共生社会をめざします

2025年度 生協組合員理事交流会

「組合員理事のもやもやを考える」

2026年2月20日、奈良県橿原文化会館会議室で、組合員理事32名、組合員監事2名、事務局含め40名が参加して交流会を開催しました。奈良県内で地域購買生協3生協と医療福祉生協ができ、それぞれ地域で活動展開と蓄積がなされてきました。組合員活動の推進役でもあり、生協の重要事項を決定・執行する機関の役割を担う組合員理事が、悩みをかかえている状況もあります。

元奈良県生協連の専務で県連専務時代に組合員理事交流会を設定され、医療福祉生協の理事長も含めて組合員理事として、約40年にわたり活動されてこられた仲宗根迪子さんを講師にお招きして、お話していただくことになりました。実行委員会で組合員理事から「もやもや」や悩みを聞き計画を練ってきました。組合員理事同士が、組織の違いを超えお互いに情報交流し、悩みや思いを分かち合いました。理事の立ち位置や、奈良県内の生協の価値を改めて考える機会となりました。



仲宗根迪子さんのお話



県内で生協運動を広げる同じ立場の仲間と研修・交流することで視野を広げ、力をつける機会にしたいと思い、生協組合員理事交流会を作った。日本生協連女性評議会(1991)と関西地連ジェンダーフォーラム懇談会(1996)に参加することで目が開かれた思いだった。今日のテーマの「もやもや」はどこから来るのか。人との関係、生協の違い、立場の違いによって異なる。組合員理事の役割は、法的な立場での理事者であり、信頼の上での理事会での自由な議論は必要。事業に関してはアマチュアであるが生活についてはプロ。運動のコーディネーターとその継ぎ目になってほしい。ガバナンス改革では会社法に準じた改正があった。理事としての判断基準を持つには、複数の物差しを持つこと。歴史や経緯の時間軸、社会状況を見る水平軸、組合員軸・立場軸、そして自分軸を持つために得意分野を持つこと。人とコトを分けて考えること。生協の価値に自信を持ってほしい。生活協同組織の組合員は何を望むのか。自ら動き仲間と取り組むことを事業化できるとよい。生協は、民主的運営と倫理的価値を持っている。理事としてやりがい感を持てるようになってほしい。組合員との関係を密にして一緒に学び成長すること。仲間がいることが達成感につながる。そのことが市民としてのくらしづくり、社会づくりに貢献することになる。

- 10:00 開会あいさつ
 10:05 『組合員理事のもやもやを考える』
 ～組合員理事の事業と運動での役割～
 講師 元奈良県生協連専務理事
 仲宗根迪子さん
 11:10 休憩
 11:20 ワークショップ(1グループ5～6人
 A～Gグループ)
 自己紹介・仲宗根さんのお話の感想
 「私の悩み、もやもやすること、聞いて
 みたいこと」
 12:00 全体共有 各グループ報告
 12:15 仲宗根さんにお尋ね
 (聞き手:実行委員吉田由香さん)
 12:30 閉会あいさつ
 各生協からのPRタイム 昼食交流



講師の仲宗根迪子さん



ワークショップ

アンケートから

・もやもやしていた一番のこと、理事の立ち位置に関しては、だいぶスッキリしました。また、生協の社会的役割についても聞くことができてよかったです。

・生活者の組合であることを再確認しました。被団協のノーベル平和賞受賞で私達は平和な世界を強く感じる事ができましたが、世界はそうではない現実があります。私達の生活を守るため一組合員(どこにも利害の無い)としてくらしと平和を守るための運動をすすめていきたい。

・他生協の方と安心して思ったことを言える場があってありがたいです。共感や気づきがたくさんありました。地道な活動、運動、歴史を振り返ってみたいと思います。

おじゃましました // 生活クラブ生協奈良の 「おふくわけ」活動

生活クラブ生活協同組合(奈良)
理事長 夏目有香

「おふくわけ」のいきさつ

コロナ禍を経て、昨今では、様々な情勢による物価高の影響を受け生活に困窮し、毎日の食事を満足に取ることができない人が増えています。生活クラブ生協では「おふくわけ」の仕組みを通して大勢の組合員の参加で地域における支援の輪を広げています。一般的には、フードバンクは家庭内の余剰の食品や、流通しない規格外品や未利用品などの食品ロスの寄贈を受けて運営されていますが、生産者が組合員の注文にもとづき計画を立てて消費材(生活クラブ生協では「商品」と呼ばずに、生活に必要なものは利潤を得るものではなく、消費することに価値を置く「消費材」と呼ぶ)の必要量を生産する生活クラブ生協の「予約共同購入」は、そういった食品ロスを発生させないシステムです。

そのような中、食の支援が必要な人に届ける消費材を組合員が注文する仕組みとして開始されたのが「おふくわけ」です。注文した組合員の手元には配達されず、地域で食の支援に関わる団体に届ける生活クラブフードバンクの新しい取り組みです。コロナ禍において生活苦に陥った学生を支援しようと立ち上がった「若者応援プロジェクト奈良」への参加では、当初生活クラブ生協奈良としては人的支援のみに留まっていたが、「おふくわけ」の取り組みにより食品の支援を実現することができました。



組合員さんへの呼びかけ

組合員に対しては、「おふくわけ」取り組み週に案内チラシを配布し、今までの取り組み実績や、取り組み地域、支援先の紹介を掲載しています。また支援先からのメッセージや参加組合員の声を届けることで多くの参加を促しています。特に「若者応援プロジェクト奈良」の意義や学生の声は組合員の心に響き、受注は目標数を上回る達成率となっており、組合員からの一定の支持を得ることができています。

大学生への「おふくわけ」に参加して

実際に大学で実施されるフードパントリーに参加する際には、一人ひとりの学生たちに声かけをしながら提供品を手渡すことができています。「ありがとうございます」という笑顔に心がなごみますが、後のアンケートからは、食費を切り詰めて生活している現状が読み取れます。手渡す瞬間はあっという間に過ぎ、列をなす多くの学生にとって、この食の支援が少しでも不安を和らげる一助になればと願うばかりです。組合員にとっても決して他人事ではなく、自分の子どももいつか困った時に寄り添ってくれる誰かがいることで安心して日々を過ごせる、困った時はおたがいさま、自分が注文することで誰かの役に立てるなら是非参加します、などの組合員の声が多く聞かれています。誰かの役に立つことができればと願う人は多くいますが、想いはあってもどのように形にしていけばいいのか、行動すればいいのか分からないのも現実。「おふくわけ」が、そのような組合員の想いを支援の形として学生に届けることで、組合員と地域の学生のつながりを実現してきました。

伝えたいこと

今後、このような活動をきっかけとして地域への支援の輪を広げていくためにも、まずは組合員同士の日常の小さなたすけあいからつながりづくりをすすめていきます。人は誰かに頼り頼られ生きていくもの、生協ならではの子どもから高齢者までの多世代が共に関わり合いながら、「おたがいさま」と言える関係を広げることで、地域への支え合いへと深めていくことができます。

講演会

「加速する気候変動がもたらす私たちの暮らしへの影響」

13:30 開会

- ① 講演「地球温暖化と私たちの暮らしへの影響」
奈良地方気象台 調査官 山崎誠導さん
- ② 講演「温暖化に伴う奈良県の米への影響と対応について」
奈良県農業研究開発センター栽培・流通科
総括研究員 小林幹生さん
- ③ 講演「気候変動にどう向き合うか」
気候ネットワーク事務局長 田浦健朗さん
質疑応答・会場との意見交換

16:30 閉会



奈良地方気象台 山崎誠導さん



奈良県農業研究開発センター 小林幹生さん



気候ネットワーク 田浦健朗さん

奈良県生協連の友誼団体である「NPO法人サークルおてんとさん」の講演会が2026年1月25日奈良県コンベンションセンター会議室で開催され、48名が参加されました。(奈良県生協連・奈良市地球温暖化対策地域協議会共催)

昨年の夏はとても暑く、令和の米騒動もあり、私たちの食、特に奈良でのお米の対策はどうなっているのか、奈良地方気象台や県のお米の研究開発をされている方にお聞きして、全国や世界ではどうなっているのか、これからどうすべきかを学ぶ場となりました。

温室効果ガスは過去80万年間で前例のない水準まで増加。世界平均気温も次第に上昇し、猛暑日や熱帯夜などが発生しやすくなり、気温だけにとどまらず降水、海水温、海面水位などにも影響する。気温上昇を1.5℃に収めるには、2020年時点で残りは4000億トンCO₂しかないと言われ、あまり残されていない。削減に向けて家庭部門の私たちでもできる事はまだあるとのことでした。また、温暖化に適応するためのお米の高温耐性品種の開発や害虫や栽培方法などの話ははじめて聞くことも多く、ともに濃い勉強になりました。田浦さんからは世界の再生可能エネルギーの動向、日本各地の先進的な取り組み事例の紹介がありました。アンケートから、気象台の方や県農業研究の方の真摯な取り組みがよく分かりよかったとの感想が寄せられました。特に高温耐性品種を導入するにも苗の不足や他の品種との混入など様々な課題があり、困難なことも多いことを知りました。講師の方からは、異業種交流で勉強になったとの感想をいただきました。



気候ネットワーク 田浦健朗さんの進行で質疑応答

楽しく学ぼう!! 憲法学習会

今の戦争の時代に憲法9条で未来を築く

1月31日 ならコープ本部1階会議室にて楽しく学ぼう!! 憲法学習会「今の戦争の時代に憲法9条で未来を築く」を憲法学習会実行委員会主催(奈良県生活協同組合連合会・ならコープ・奈良県医療福祉生協・ならコープ労組・ならコープ平和の会)で開催し78名が参加されました。学習会では、中田進弁護士(関西勤労者教育協会講師)を講師にお迎えして戦争の歴史を振り返りながら、日本国憲法がどのような反省のもとに生まれ、今日まで平和を支えてきたのかを学びました。



～今の戦争の時代に 憲法9条で未来を築く～

中田進弁護士(関西勤労者教育協会講師)



日本は明治以降、日清・日露戦争からアジア太平洋戦争へと戦争を重ね、国内外で多くの命を失いました。東京大空襲

や広島・長崎の原爆、沖縄戦、満州や東南アジアでの犠牲など、戦争の被害は国境を越えて広がりました。こうした深い反省の上に、二度と戦争をしないという決意として日本国憲法が制定されました。

憲法は、戦争放棄を定めた9条だけでなく、国民主権や基本的人権の尊重を柱とし、「一人ひとりが尊重され、健康で文化的な生活を送る権利」を保障しています。一方で、戦後は日米安保条約や自衛隊の創設など、憲法との関係が問われ続けてきました。

近年、国際情勢の緊張や軍備拡大が進む中で、私たちは改めて憲法の役割と平和の意味を考える必要があります。

学生が考える 憲法との向き合い方

2026年度 Peace Now! 奈良に向けて

奈良女子大学生協
学生委員の内木ねね
さん、永見桜子さん、
水谷佳那さん



が、平和学習での学びを報告しました。学生たちは沖縄県を訪れ、資料館の見学や現地でのフィールドワーク、証言映像を通して沖縄戦の歴史を学び、過去の出来事が現在にもつながっていることを実感しました。また、被爆体験を語られた秋山さんのお話から、戦争の記憶を受け継ぎ、次の世代へ伝えていくことの大切さについて考えました。

さらに、学生が記事を作成し意見交換を行う「ピーなら図書館」の取り組みも紹介されました。平和について考える中で憲法にも触れながら、多様な視点で意見交換を行い、知ること、考えること、そして自分の意見を持つことの大切さを共有しました。

今後は、SNSでの発信や参加大学の拡大を進めながら、学生が平和について学び、対話できる場づくりを続けていきます。

参加者の感想

・楽しく勉強させていただきました。ありがとうございました。憲法しっかり守りたいと、改めて思いました。9条でほこりにできる国になりたいですね。


・学生さんたちの報告、元気がでる内容でした。中田先生のお話は、ユーモアがあり、判り易かったです。歴史から、現状を学んで、改めてまわりの方々に広めていきたいと思いました。ありがとうございました。

核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議へ


NPT再検討会議とは、核兵器を増やさないための国際的な約束である核兵器不拡散条約(NPT)がきちんと守られているかを、世界の国々が集まって確認し、今後の取り組みについて話し合う国際会議です。5年ごとに行われています。今年4月27日から5月22日まで、ニューヨークの国連本部で開催されます。矢崎友萌さんは生協代表団の一員として4月24日から5月1日の予定で、本会議の傍聴や日本被団協が実施するロビー活動などに参加します。



ならコープ代表派遣者
矢崎 友萌さん



「災害時」における多様な主体間 (NPO・企業等、士業、行政、社協) による連携を進める奈良フォーラム




基調講演 中島武志さん

2月7日奈良防災プラットフォーム連絡会が主催した「災害時における多様な主体間による連携を進める奈良フォーラム」の運営に参画しました。このフォーラムは、東日本大震災や能登半島地震などの教訓をふまえ、行政、企業、NPO、ボランティアが平時から「顔の見える関係」を築き、災害時でも奈良県内で支援を完結できる体制づくりをめざして開催されたものです。

基調講演では災害救援レスキューアシスト 中島武志氏が、被災地のリアルな現状について語りました。災害時には携帯電話やインターネットが使えなくなる可能性を想定し、家族との連絡方法を事前に決めておくこと

の大切さが強調されました。また、衛星通信サービス「Starlink」やポータブル電源など、「情報」と「エネルギー」を自前で確保する備えが命を守るうえで極めて重要であることが示されました。

分科会では、具体的な支援のあり方について意見が交わされました。まず、「人」に寄り添う支援の大切さです。単なるガレキ撤去などの作業に終始するのではなく、被災者が発する「助けて」という声や、その裏にある「家を再建したい」といった切実な願いを丁寧に聴き取ることの重要性が共有されました。無意識の「かわいそうに」という言葉が、被災者の尊厳を傷つけてしまう可能性があるという指摘は、支援のあり方を改めて考えさせられるものでした。また、専門家や企業との連携の重要性も示されました。専門知識を持つ技術系ボランティアとの協力や、企業が持つ物資や人材といった資源を地域の支援につなげるなど、官民が一体となった仕組みづくりの必要性が共有されました。行政・NPO・専門家がそれぞれの役割を担い、「災害中間支援組織」が情報の交通整理を行うことで、混乱を防ぎ、必要な支援を確実に届けることができるとされています。

今回のフォーラムを通して、法律や仕組みだけでは補いきれない部分を「人」のつながりが支えることの重要性が改めて共有されました。奈良県では、南海トラフ地震が発生した際、津波被害が想定されにくいことから全国的なニュースや支援から取り残される可能性も指摘されています。だからこそ、県外に頼るだけでなく、平時から「誰がどこで何を得意としているのか」を知り合う関係づくりが大切になります。

特に道路が寸断されやすい奈良県南部では、孤立を前提としたネットワークづくりが命綱になります。公助が届くまでの時間を支えるのは「自助」と「共助」です。今回の気づきを知識で終わらせるのではなく、「動けば変わる」という思いで、顔の見えるつながりを一歩ずつ広げていくことが、これからの奈良の防災につながると感じました。



災害ボランティア活動パネル展示

第27回近畿農政局と 近畿地区生協府県連協議会との意見交換会



2月25日、農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会が滋賀県農業教育情報センターにおいて開催されました。行政と消費者が対話し、農家の高齢化や近畿地域の低い食料自給率などの課題を共有し、地域の農業を未来へつなぐ「支え合いの仕組み」を考えることを目的としたものです。奈良からは奈良県生協連、ならコープ、コープ自然派奈良が参加しました。コープ自然派奈良の重村とみ理事から産直米の取り組みが報告されました。

近畿農政局から、近畿地方の食料自給率がわずか12%（全国平均38%）にとどまっている現状が報告されました。私たちの食卓の多くが地域や海外に支えられていること、さらに稲作農家の平均年齢が現在72歳（2025年試算）で、2030年には74歳に達すると見込まれるなど、農業の担い手不足が深刻化していることも示されました。加えて、肥料や燃料価格の高騰により、米60kgを生産するコストは15,796円に達しており、農家の厳しい状況が伝えられました。

これらの報告を聞き、生協が生産者と手を取り合いながら取り組む活動には大きな希望が感じられました。コープ自然派奈良では、産直米「大和ひみこ米」の予約購入に加え、親子での田植え体験や生き物調査を実施し、生産者と消費者の信頼関係づくりをすすめています。また、わかやま市民生協では、高齢化が進むゆず農家への収穫ボランティアの派遣や、配送網を活用した地域の見守り活動を展開しています。さらに、生活クラブ生協では、国産トマトの生産を守るため、組合員が収穫を手伝う「計画的労働参加」に取り組んでいます。消費者が「買う人」にとどまらず、生産を支える存在となる取り組みです。

行政の施策としては、環境への配慮の度合いを星の数で示す「見える化」ラベルの取り組みも紹介されました。温室効果ガス削減や生物多様性への配慮などが分かりやすく示されることで、私たちの買い物行動が持続可能な農業への応援につながります。生産現場ではデジタル化やスマート農業の推進も進められていますが、それ以上に大切なのは、私たち消費者が農業の現状を知り、共感し、選ぶことだと感じました。生産者と消費者が支え合う関係を広げていくことが、地域の「食と農」の未来を守る力につながることを実感する機会となりました。



大阪ガス懇談会

関西消費者団体連絡懇談会と 大阪ガスマーケティング株式会社との懇談

3月16日、全大阪消団連事務所で、関西消費者団体連絡懇談会（以下、関消懇）のメンバーと大阪ガスマーケティング株式会社2名との懇談会があり、会場6名とオンライン3名が出席しました。昨年7月に関消懇が提出した「エネファーム販売における不適切行為に係る申し入れ」に対する回答書を今年1月末にいただきました。これを受け、消費者として納得するまで聞くために実現したものです。

今回の申し入れは、昨年3月28日に「エネファーム販売における不適切行為についてのお詫びとご報告」というプレス発表があり、その内容を質問したものです。

問題となったのは、省エネ給湯機器を設置した場合の光熱費試算において、本来同一時期のガス・電気料金単価で比較すべきところを、エネファームの光熱費低減メリットが大きくなるように異なる時期の単価を設定して、販売していたことが内部通報で分かったそうです。景品表示法違反と認識し、消費者庁に報告され、調査が入りました。2020年3月から2024年10月までの期間、不適切行為があったことが確認されたそうです。

事実関係の概要、原因・責任の所在、再発防止策、対象契約者への対応内容など、事前に出した質問を中心に回答を直接お聞きしました。担当者からは、一部の従業員が起こしてしまったことではあるが、組織として真摯に向き合い、再発防止策に取り組んでいると報告がありました。高価な機器を購入するにあたり、不適切なデータでメリットを過大にうたうことは消費者の信頼を損なう行為です。創立120年という歴史に恥じない会社であり続けてほしいと伝えました。

若者応援プロジェクト奈良2025 in奈良女子大学

「コロナ禍で困っている学生の食糧支援をしよう」と2021年5月末から動き出した「若者応援プロジェクト奈良」。コロナが落ち着いてからも今度は物価高騰により学生さんは生活が苦しいまです。

奈良県立大学、奈良教育大学に続いて、1月30日奈良女子大学生協食堂で、奈良県生協連の若者応援プロジェクト奈良2025年度の3回目の活動として、フードパントリーを実施しました。

食品の詰め合わせ150名分用意し、学生さんに配布。開始から6分ほどで終了しました。今回の食品は、ノンカップ麺450食分、生活クラブ生協の組合員さんによる「おふくわけ活動」として困っている学生さんのためにと寄付して下さった食品です。また、コープ自然派奈良のレトルトカレー、ならコープのパックご飯150食を購入しました。今回もアンケートから物価高騰で学生さんたちが困っている実態が分かりました。

**苦しくなった理由
(学生アンケート 複数回答可)**

- ① 生活費があがった…… 80.4%
- ② アルバイト収入が減った… 60.8%

**配布した食品
(一人当たり)**

- ノンカップ麺…… 3袋
- レトルトカレー…… 1袋
- パックご飯… 1パック



感想

- ラーメンやカレーやパックご飯などが入っていて、一人暮らしのご飯にとっても助かるものばかりで、とてもありがたいです。
- ご飯代を節約してご飯を食べないこともあったので嬉しいです!
- 留学生にとってもとてもありがたいです。
- 物価高での一人暮らし生活を送る中で、今回のような支援があると非常に助かります。

食を通じたネットワークづくり第二回交流会

(主催:もったいないNARA) コープ共済ささえあい助成事業

2月5日、コープふれあいセンター六条で交流会が開催され、もったいないNARAが食品をお渡ししている市町村社協や関係者40名ほどが参加しました。初めにもったいないNARAの活動報告。その後、基調講演に「食を通じた活動と地域福祉」として天理大学人文学部社会福祉学科教授の渡辺一城さんがご講演。単に食事を用意すればいいのではなく、共に食べることが重要。学校給食はとても大切なのだということに気づきました。その後、食品をお渡ししている3団体からの報告がありました。

1つ目は、障がい者支援施設社会福祉法人こぶしの会「こっから」の報告。送迎バスを使って利用者さんと共にバナナの受け取りに遠足のような気分で作られるそうです。働く権利、支えるよろこび、一人一人の役割や意識を持ってもらうことが大事なのだとのこと。

2つ目は、大和郡山市ボランティア連絡協議会から大和郡山市社協さんと協働で進めているフードライブ活動報告。チラシづくりや広報に協力し、社協に集まるお米や食品の袋詰め作業などを担っています。ボランティアは楽しい。楽しくなければボランティアではない。市社協さんからは、社協の職員だけではできない。つながりの輪を大切にしたいとのこと。

3つ目は田原本町社協さん。社協の中に「おたがいさまコーナー」をつくり、登録者専用コーナーとどなたでもコーナーを設置。はじまりは、コロナ禍のライオンズクラブからの野菜や果物の提供でした。その後2023年の町のイベントで20~30件の提供を受け、おたがいさまのコーナーが充実。社協の想いは、困っている人が少しでも足を運ぶきっかけになりつなぐことができればと思うこと。コーナーの整理が引きこもりの方の仕事となり、居場所となっている。食品の提供だけではなく、相談支援、専門機関との連携ができるようになる。気軽に行ける場所にしたい。バナナはキーワード。誰でも食べられるもの。バナナの提供はありがたいとのことでした。



官学連携による消費者啓発事業が開催されました

あつまるNARA 消費者楽習フェス

～NPO・行政・大学生による消費者啓発モデルの構築にむけた試み～

奈良県生協連が支援するなら消費者ねっと主催で2月21日、「あつまるNARA 消費者楽習フェス」が開催され、参加者同士が交流しながら楽しく学ぶ新しい学びの形が紹介・共有されました。今年度は、成年年齢引き下げやデジタル化の進展により、若者から高齢者まで消費者トラブルへの注意が必要となっていることを踏まえ、奈良県内に在住・通勤・通学する18歳以上の方や関係機関を対象に、官学連携による出前交流会を実施しました。出前交流会は、奈良女子大学消費者問題研究会BEACSやグループあんあんと連携して5回開催。寸劇やすごろく、カルタなどの参加型プログラムを通じて世代を超えた交流が生まれ、消費者トラブルを自分ごととして考える機会となり、地域で被害を防ぐ意識づくりにつながりました。こうした取り組みの成果を共有する場として、今回のイベントが開催されました。奈良県県民暮らし課 染川 幸史課長から開会のご挨拶をいただきました。



司会 清野さん・京極さん

● session 1

●奈良県県民暮らし課の取り組み



松原 永治 課長補佐

奈良県内の特殊詐欺の被害額は約23億4000万円、1件あたり約725万円と高額で、一度の被害が生活を大きく揺るがします。警察や検察を名乗り不安をあおる手口が多発しており、考える時間を与えず冷静さを失わせる巧妙な手口は、知識があってもだまされかねません。おかしいと感じたときは一人で抱え込まず消費者ホットライン188への相談を呼びかけられました。あわせて、啓発のために作成した15秒のショート動画（SNS、クーリング・オフ、点検商法、訪問販売）と、映画館で上映している特殊詐欺防止動画が上映されました。

●なら消費者ねっとの取り組み報告



辻 由子 事務局長

本企画運営事務局として、シリーズ前半の「出前交流企画」が報告されました。出前先得温かく受け入れられ、多世代が交流しながら学べる場づくりが進んだことを紹介しました。あわせて、なら消費者ねっと独自ですすめている消費者教育の活動についても伝えられました。また、不当な行為を行う事業者に対し、「そのやり方はやめてください」と正式に申し入れるなど、法律を活用して消費者を守る取り組みも紹介されました。

● session 2

●グループあんあんの取り組み(実演)

グループあんあん

笑いを取り入れた寸劇3本「警察官をかたる詐欺」「オレオレ詐欺」「水道工事トラブル」を実演、これに解説が加えられました。



●大学生が変える学び：遊びながら身につく「物の知識」



奈良女子大学BEACS

県の消費者フェアへの参加や奈良市立一条高校への出前授業、下市町でのワークショップなど最近の活動が紹介され、本企画前半の多世代型出前交流企画の様子も報告されました。地域や学校、商業施設などで幅広い世代と交流し、学生が「共に学ぶ立場」で関わる意義が語られ、今後はマスコットづくりやコンテンツの充実を通じて地域との連携を深めたいそうです。最後に、消費者教育フェスタ in 奈良や下市町での活動を紹介する動画が上映されました。

● session 3

●みんなで楽習しよう!



◆参加者アンケート

・参加型のアトラクションゲームは盛り上がりました。とても楽しく学びました。こんなにいいイベントなのに、多くの人に関心がないのが寂しい。だからこそいつまでも消費者被害は減らないのだろう。地道にやっていくしかないか。

・寸劇はプロかと思う程皆さん上手に演技されていて、現実的に良くわかりました。もっと沢山の方に見て頂けたら良かったのと思います。

1月

- 5日(月) 年始挨拶(県庁・JA)
- 6日(火) 年始挨拶(県社協)
- 8日(木) 生協指導検査(奈良県医療福祉生協)
- 10日(土) 京都府生協連新春交歓会
- 13日(火) 日本生協連新年方針交流会
(～14)・賀詞交歓会
- 14日(水) 日本被団協御礼訪問
- 15日(木) 県民くらし課消費者啓蒙活動、
滋賀県生協連賀詞交歓会
- 16日(金) 奈良防災プラットフォーム
連絡会参画団体定例会
- 17日(土) 生協だれでも9条講演会、
桜あかりの集い
- 20日(火) 生協指導検査(生活クラブ生協)
- 21日(水) 県社協・ならコープ・県連
包括連携協議
- 22日(木) 奈良県生協連第5回理事会・新年会
- 23日(金) ピースアクションをすすめる会
- 25日(日) サークルおてんとさん講演会/共催
- 26日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会

- 27日(火) 生協指導検査(奈良県労済生協)
- 29日(木) 大阪府生協連被災地支援事
務局会議、関西地連運営委
員会・県連活動推進会議
- 30日(金) 若者応援プロジェクト奈良
女子大学生協フードパントリー
- 31日(土) 憲法学習会/共催

2月

- 1日(日) JAならけんいちごキングダム
- 4日(水) 生協理事交流会実行委員会
- 5日(木) もったいないNARA第2回交流会
- 6日(金) JCA都道府県協同組合全
国交流会
- 7日(土) 奈良県災害支援を考えるフォーラム、
奈良県農村振興シンポジウム
- 10日(火) 会員生協訪問(奈良県医療福祉生協)
- 13日(金) 関西広域連合総会
- 18日(水) 会員生協訪問(奈良女子大学生協)、
地域における社会貢献検討会
- 20日(金) 生協組合員理事交流会
- 21日(土) きょうされん実行委員会、
なら消費者ねっと受託啓発企画
- 23日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会

- 24日(火) 日本生協連 生協法改正要望学習会、
会員生協訪問(生活クラブ生協)
- 25日(水) 近畿農政局・近畿地区生協
連の意見交換
- 26日(木) なら消費者ねっと理事会
- 27日(金) 第10回奈良県消費者行政懇談会
- 28日(土) ピースアクションキックオフ
(主催日本生協連)

3月

- 4日(水) ピースアクションをすすめる会
- 7日(土) 適格消費者団体連絡協議会
- 8日(日) 赤い羽根共同募金チャリティイベント
- 10日(火) 日本生協連創立75周年ダイヤログ
- 11日(水) 奈良県社協・ならコープ・奈良県
生協連による包括連携協定締結
- 12日(木) 奈良防災プラットフォーム
連絡会検討会
- 13日(金) 近畿地区生協府県連協議会(福井県)
- 19日(木) 奈良県生協連第6回理事会
- 23日(月) 共同募金会評議員会、吉野
共生プロジェクト推進委員会
- 26日(木) なら消費者ねっと理事会
- 31日(火) 日本生協連近畿地区総会議
案検討会議

公示 奈良県生活協同組合連合会 第37期通常総会開催について

当会：定款49条にもとづき、奈良県生活協同組合連合会 第37期通常総会を下記の通り開催します。

奈良県生活協同組合連合会会長 森宏之

1.日時 2026年6月27日(土) 10:00～12:00

2.会場 奈良ロイヤルホテル(奈良市法華寺町254-1)

3.議案 第1号議案 2025年度事業報告・決算関係書類承認の件 第2号議案 2026年度事業計画・予算案決定の件
第3号議案 役員選任の件 第4号議案 役員報酬決定の件

4.代議員選出について 会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は会員ごとの定める選出方法に
よって選出します。会員生協の定数は各3人とします。

編集後記

物価高騰に加えて、記録的な少雨による水不足、中東情勢の悪化に伴うガソリン価格の高騰など厳しい状況が続く不測の時代だからこそ、たすけあい協同の力を生かし未来に希望のもてる地域共生社会へ。(武)

極寒に震えた季節が過ぎ、今度は猛暑・酷暑が心配になる。四季が消えた？日本らしさはどこへいったのだろうか。気象庁が40度以上の日の名称を決めるために「炎暑日」「激暑日」「烈暑日」など13の候補をあげアンケートを行ったようだ。(和)

先日、孫のそうちゃんの卒園式に出席させてもらった。よその子どもさんなのに、なぜか入場から涙腺が緩みっぱなし。そうちゃん大きくなったね。(順)

息子のスノーボードデビューに付き添い、私も十数年ぶりに板を履いてみました。頭の中では颯爽と風を切る予定でしたが、現実是非情です。(幸)

湾岸戦争が始まったとき、―世界がどうなっていくのか―小さな我が子の未来が不安でした。そして今、再び中東で戦火が広がっています。同じように小さな子どもたちの未来に不安を持っているのは私だけではないと思います。(佳)